

高知県の地震

目 次

高知県の地震活動

震央分布図及び断面図	1
地震概況	1
高知県で震度1以上を観測した地震の表	2
高知県で震度1以上を観測した地震の震度分布図	3

地震一口メモ

海底地震計観測データの緊急地震速報への活用について	4
---------------------------	---

※「高知県の地震」は月1回発行するもので、高知県及びその周辺の地震活動状況をお知らせすると共に、適宜、社会的に関心の高い地震について解説します。また、「地震一口メモ」で地震防災知識等の普及に努め、皆様のお役に立つことを目的としています。

※この資料の震源要素及び震度データは、再調査された後に修正されることがあります。

※本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。

また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米
国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

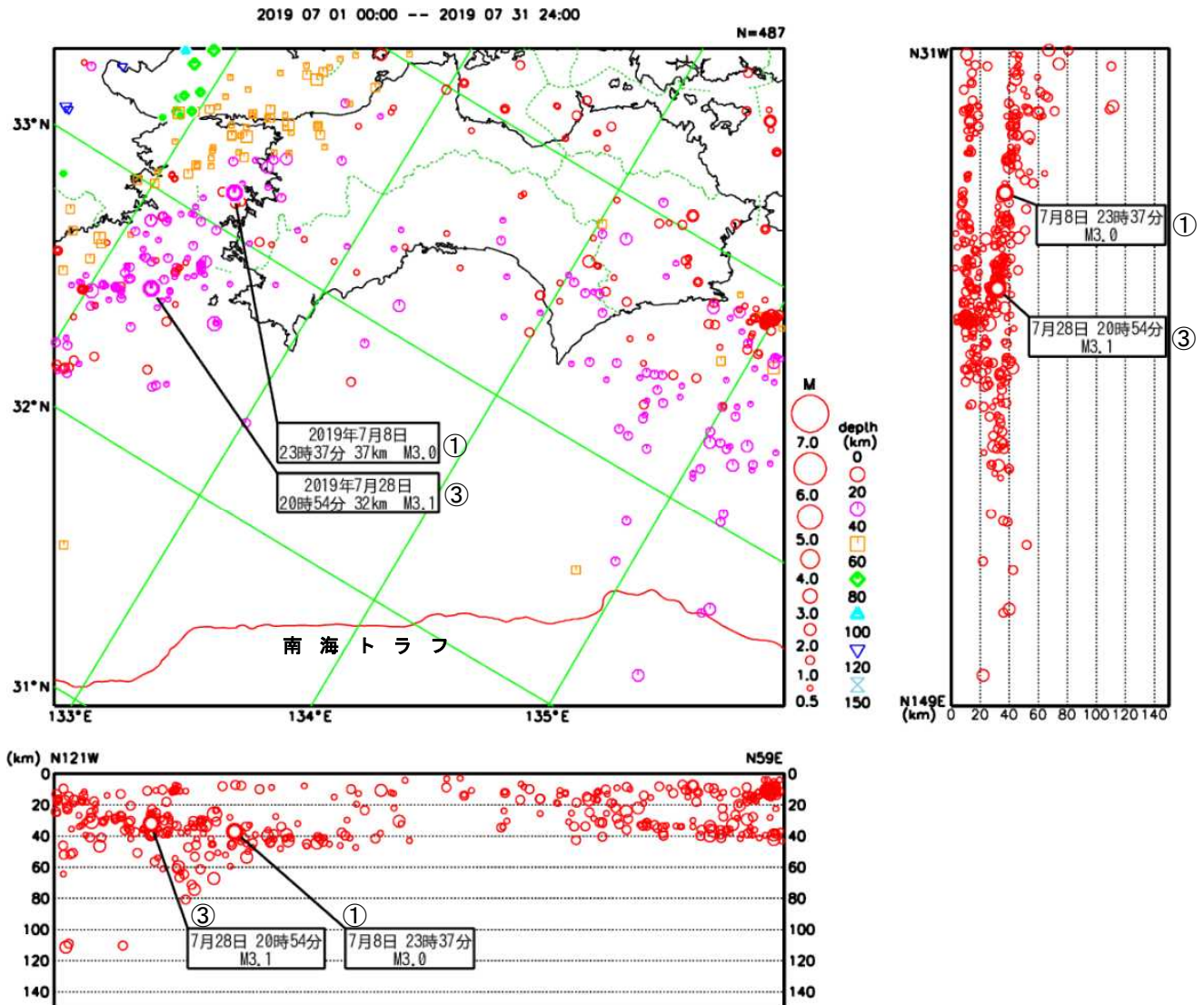
2019年(令和元年)7月

高 知 地 方 気 象 台

高知県の地震活動

「震央分布図及び断面図」

(2019年7月1日～7月31日)



震央分布図では、地震の規模を示すマグニチュード(M)はシンボルの大きさと色で表しています。震源の深さはシンボルの形と色を深さに応じて変えて表しています。

断面図(右図及び下図)は、震央分布図範囲内の地震の北北西-南南東方向断面図(右)と西南西-東北東方向断面図(下)を表し、それぞれの地震の震源の垂直分布を表しています。

「地震概況」

2019年(令和元年)7月に、高知県内の震度観測点で震度1以上を観測した地震は3回でした(前月は3回)。

8日23時37分 豊後水道の地震(深さ37km、M3.0、震央分布図①)により、宿毛市で震度1を観測しました。また、愛媛県宇和島市で震度1を観測しました。

13日09時57分 奄美大島北西沖の地震(深さ256km、M6.0、震央分布図範囲外②)により、高知市・宿毛市・黒潮町で震度1を観測しました。また、鹿児島県で震度3を観測したほか、中国・四国・九州・沖縄地方にかけて震度2～1を観測しました。

28日20時54分 日向灘の地震(深さ32km、M3.1、震央分布図③)により、宿毛市で震度1を観測しました。

注) 地震概況にある数字①～③は、「震央分布図」、「地震の表」及び「震度分布図」の番号に対応しています。

「高知県で震度 1 以上を観測した地震の表」

2019 年 7 月

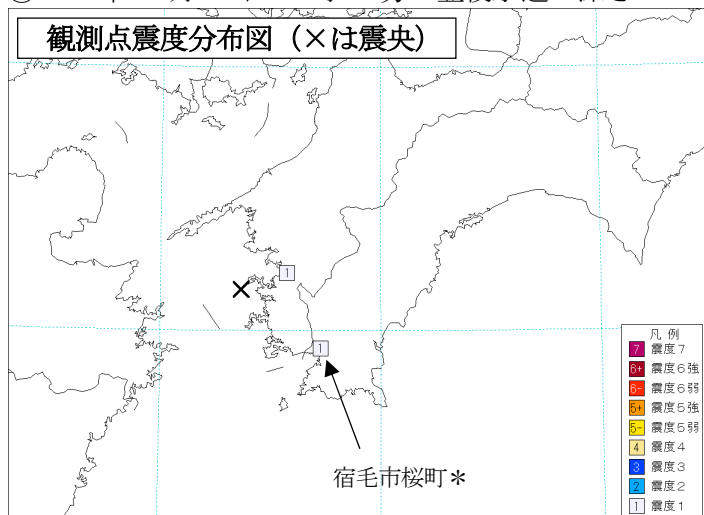
発震時刻 (年月日時分) 各地の震度 (高知県内のみ掲載)	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード
① 2019 年 07 月 08 日 23 時 37 分 高知県 震度 1 : 宿毛市桜町*	豊後水道	33° 09.3' N	132° 21.9' E	37km	M3.0
② 2019 年 07 月 13 日 09 時 57 分 高知県 震度 1 : 高知市本町, 高知市丸ノ内*, 宿毛市桜町*, 黒潮町佐賀*	奄美大島北西沖	29° 14.1' N	128° 10.7' E	256km	M6.0
③ 2019 年 07 月 28 日 20 時 54 分 高知県 震度 1 : 宿毛市桜町*	日向灘	32° 37.9' N	132° 15.8' E	32km	M3.1

注) *印は、気象庁以外 (高知県または国立研究開発法人防災科学技術研究所) の震度観測点です。

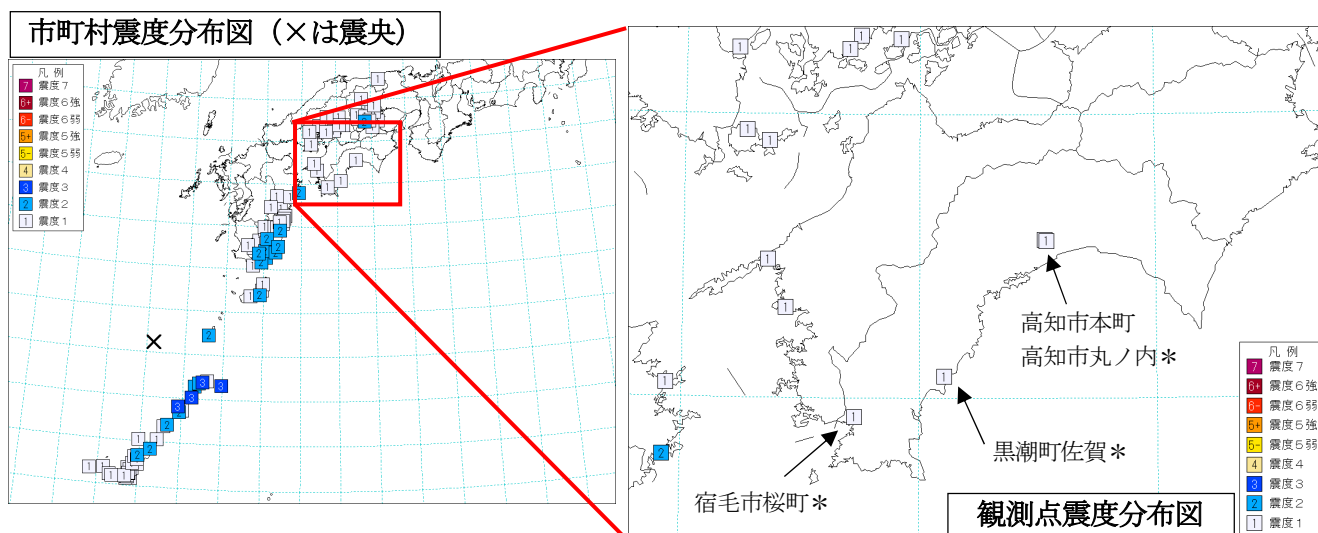
「高知県で震度1以上を観測した地震の震度分布図」

2019年7月

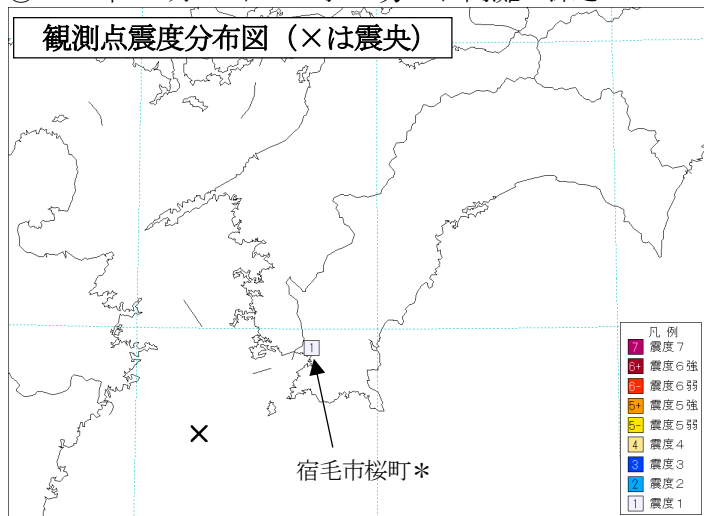
①2019年07月08日23時37分 豊後水道 深さ37km M3.0



②2019年07月13日09時57分 奄美大島北西沖 深さ256km M6.0



③2019年07月28日20時54分 日向灘 深さ32km M3.1



※観測点震度分布図には、県内で最も大きい震度を観測した地点が少ない場合、地点名を記載しています。地点名の*印は、気象庁以外（高知県または国立研究開発法人防災科学技術研究所）の震度観測点です。

「地震一口メモ」

海底地震計観測データの緊急地震速報への活用について

気象庁では、海域で発生する地震に対して緊急地震速報発表の迅速化を図るため、沖合に設置された海底地震計観測データを緊急地震速報へ活用する取り組みを進めてきました。

海底における地震観測は、地震計の設置環境や地盤の特性が陸上と異なるため、海底地震計観測データを適切に活用するための技術が必要となることから、気象庁では国立研究開発法人防災科学技術研究所(以下、防災科研)と連携して技術開発を行ってきました。今般、この技術開発が完了し、観測データの活用準備が整ったことから、防災科研が運用している「地震・津波観測監視システム (DONET)」(既に一部データは活用済み)及び「日本海溝海底地震津波観測網 (S-net)」(日本海溝より陸側の観測点)の観測データを活用した緊急地震速報の発表を、令和元年6月27日(木)より開始しました。

「地震・津波観測監視システム (DONET)」の活用により、紀伊半島沖から室戸岬沖で発生する地震については、緊急地震速報(警報)の発表が最大10秒程度早まることが期待されます。

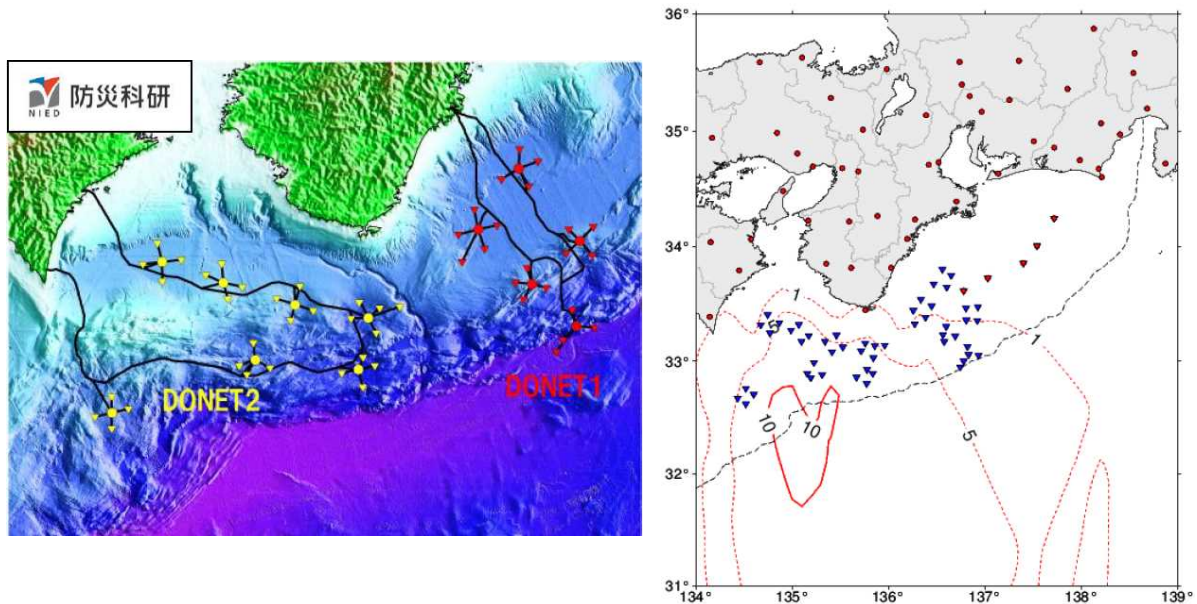


図1 地震・津波観測監視システム (DONET) (左)と観測データ活用による効果(右)
右図の数字は、その地点で地震が発生した場合、緊急地震速報(警報)の発表がどの程度早まるかを計算した理論上の最大値(秒)を示す。

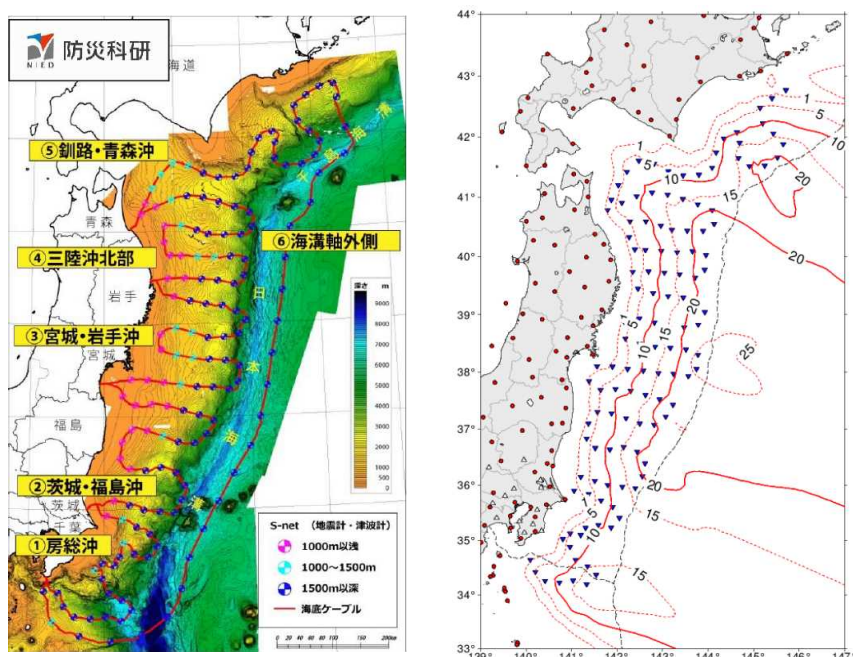


図2 日本海溝海底地震津波観測網 (S-net) (左)と観測データ活用による効果(右)
右図の説明は図1と同じ。左図の①～⑤の観測点について、緊急地震速報への活用を開始した。